

# 愛隣館研修センターニュース 第72号

〒 612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町 151 2F TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579

E-mail :airinday@sunny.ocn.ne.jp 振替 01020-5-39321

編集発行所：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者：平田 義

## 鶏が先か？卵が先か？

食品偽装問題や農薬混入事件など、『食の安全』に関するニュースが世間を騒がせております。今号では、岡山県の吉備高原で継地寮という平飼養鶏場を営む山本透さんに、「鶏と卵」から見えてくる『食の安全』の問題について執筆していただきました。消費者である私たち自身の考え方が問われています。共に考えるきっかけになればと願っております。

### はじめに

ここ数年『食の安全』がクローズアップされています。私は一介の鶏養いに過ぎませんが、『農』の世界に身を置く者として若干の問題提起をさせて頂こうと思います。

この問題で、法令に違反して食品偽装をする業者や、不自然な飼いで新たな病気を呼び込んでしまったり農薬の残留した野菜を出荷する農家が第一義的に責められるべきことは当然です。

しかし「消費者は王様だ」と言われますが「安全で美味しく見た目も綺麗で調理の手間が要らないものを、安くいつでも手に届るように作れ」と無理難題を吹っかける王様に心底服従する家臣がいるでしょうか？王様のニーズに応えるべく農業や食品加工の現場は効率化・大規模化の道を突き進み、地球上のあらゆる場所から日本に食糧が集められている現実こそが食の安全を脅かす根底にあるのだと思います。

「自給率向上」「食糧安保」「身土不二」「地産地消」様々なキーワードがありますが、ヒトという動物として生命をつなぐために必要不可欠な食料の獲得を、他人任せ・法律任せ・金任せにしているのか？私たちは考える必要がありそうです。

### 鶏本位(健康な鶏こそ、健康な卵を産む)

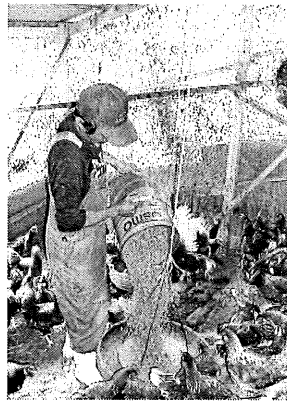
さて私共の養鶏のやり方は近代農業に逆行する、要するに人様が如何に楽をするかを考えて行動している時にわざわざ手のかかるしんどい事をしようというものですので、なぜそうするのかという理念のようなものがなければつらいばかりで続けていく事は難しいのです。

私共の理念は二つ。一つ目は『鶏本位』と言うものです。近代養鶏は如何に効率よく大量に鶏から卵を獲るか、その一点に集中する余り、産卵にとってマイナスな物、例えば土・日光・風・運動といったものを鶏から取り上げてきました。

この状況を人間に置き換えると解り易いと思います。それは母親が子供に勉強させたいために、気が散らないようにと窓を塞ぎ、友達と外で遊ぶ事を禁じて終日窓のないエアコンの利いた部屋へ子供を閉じ込めているようなものです。その子供の免疫力は低下し病気になりやすいので各種サプリメントや予防接種・抗生物質は欠かせません。また結果的に

子供が勉強に集中して優秀な成績を取ったとしても、その子が大人になった時持てる能力は社会による影響を及ぼすでしょうか？同様に近代養鶏が行き着いたのは鶏を薬漬けにする事と卵の品質の悪化という歪んだ結果なのです。

私共の養鶏は一般的に『平飼い養鶏』とか『自然卵養鶏』と呼ばれています。その基本理念は鶏の欲求に応じてやること、動物としての鶏が当然必要とする空気・水・日光などをキチンと保証してやり、卵を沢山獲る為の餌ではなく、鶏が本能的に自分の身体を養う為に必要だと感じている通りに餌を配合して与えてやるなど、まさに近代養鶏の『卵本位』に対して『鶏本位』なのです。ここを押えて人間の考え方を変えない限り、ただ籠の鳥を地面に放してやっただけではダメなのです。



### 自給品質

(わが子に胸を張って食べさせられるものを生産する)

2つ目の理念として『自給品質』という事を掲げております。私は以前あるメーカーで営業の仕事をしておりまして、物を売るという視点から製造の現場を見る事になれておりました。当然消費者ニーズの重要性も恐ろしさも認識しているつもりです。しかし一方で消費者ニーズの無責任さも、消費者ニーズに振り回され主体性を失った製造現場のモラルの低下も目の当たりにしました。そこで自分が生産者の立場になった時、長くこの仕事を続けて行く為には、売れるものではなくて自分が作りたいもの、納得の行く物を作り続けることが必要だと感じました。では自分の作りたいものとは何か？

サラリーマン時代私は過労が元で入院した事がありました。最初は1週間程度の予定だったのですがそれが1ヶ月になり2ヶ月になり、結果的に3ヶ月入院する事になりました。有給と代休で給料は満額支給され、入院費用は生命保険からほぼ全額出るわ、組合その他から見舞金を頂くわで、ベッドに寝ているだけで体を壊すまで働いていた時よりもはるかに収入が多いという妙な状況に恐ろしさを覚えました。

確かにそれは権利なのですが自分で勝ち取ったものではなく人に与えられた権利で、与えられたという事は取り上げられる事もある。もしこの権利を取り上げられたら自分は自分を養うための食糧を大根1本すら作れない。今思うと入院中の精神不安定な状態と若気の至りの成せる技ですが、どうしても自分のものは自分で作る、地に足の着いた生活がしたくなり、農業を志しました。

養鶏の勉強を始めた頃『自然卵養鶏』の世界でもポストハーベスト農薬のかかったアメリカ産とうもろこしを鶏の主食にする事が一般的でした。ポストハーベストの危険性については既に言われていましたが、国産のとうもろこしはアメリカ産の1.5倍の値段がし、また当時はポストハーベストフリーの輸入とうもろこしは手に入らなかったため主食をアメリカ産とうもろこしから他に切り替えるのはなかなか難しい状況でした。そんな中自分で養鶏を始め、主食の穀類以外は周りを見渡してみると以外と安全な餌の材料が手に入る事が判り、徐々に切り替えて行きましたが、やはり穀類については難しさを感じていました。

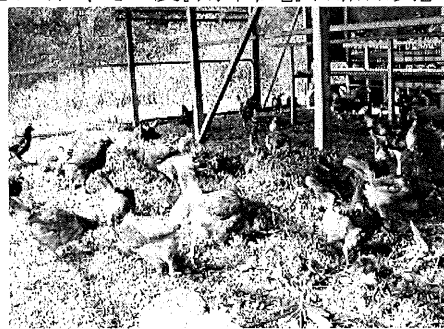
そんな時家内がはじめて妊娠し、母親の食生活が胎児や乳児に与える影響の大きさについて家内と共に学んだことと、何よりも自分の子供がこの世に現れて、もし自分の生産した卵を自分の子が食べてアレルギーが出たり病気になったりしたら、その先もうこの仕事を続けて行く事は出来ないという、理屈ではない切羽詰った思いで方々あつた結果、ビール

麦のクズ麦が手に入れる事が出来、主食である穀類の脱ポストハーベストに踏み出す事が出来たのです。

以上のように私の作りたいものとは自分と自分の家族が安心して美味しく食べる事の出来る卵であり、それを『自給品質』と呼んでいる訳です。自給品質つまり自分の作りたいものを作る為には餌の安全性に拘らざるを得ませんでした。

### おわりに

以上のように卵は鶏が産むもので、私の仕事は『養鶏』、文字通り鶏を養う事です。しかし天候次第では産卵が落ち込んで、まだまだ未熟な私はどうしても商売や収入の事が気になって鶏から目が離れる事があります。そうすると鶏の状態が悪くなり更に産卵の低下を招く事態に陥ります。15年間何度も同じ失敗を繰り返しては、その度『鶏本位』『自給品質』の原点に立ち戻りながら続けてきました。今後も卵屋としてではなく鶏養いとしてしっかりと鶏を見つめながら歩いて行きたいと願っております。



(継地寮・山本透)

## スヌーズレンルームが完成しました!

「スヌーズレン」はもともと、重度知的障がいを持つ人々との関わりの理念(考え方)として、およそ25年前にオランダの重度知的障がい者施設で生まれ、発展してきたものです。

スヌーズレンという言葉は、オランダ語の「スヌッフレン(探索する)」と「ドゥーズレン(うとうとする)」という2つの日常的な単語を組み合わせた造語で、「自由にゆったりと楽しむ」意味を持っています。障がいを持つ人が感じ取りやすく、楽しみやすいように、光、音や音楽、色々な素材の触れるもの、香りなどの刺激で満たされたお部屋が「スヌーズレンルーム」です。

スヌーズレンでは障がいを持つ人自身(利用者さん)が、自分の好きな感覚刺激を自分で選び、自分のペースで自分自身の楽しい時間を持つことを大切にしています。

心地よい照明、音楽、香りなどが醸し出す雰囲気は、付き添う人にとっても共に刺激を分かち合い楽しむことができるので、利用者さんが楽しんでる姿をそっと見守り、ありのままに受け入れ、共にその場を楽しむようにします。利用者さんが好んで選んだ刺激や、利用者さんの楽しみ方・感じ方を知り、互い

にリラックスし心地よい時間を過ごす中で、お互いに気持ちを通じ合っているという実感を感じられるようになる・・・そんなステキな時間を過ごすことができます。

スヌーズレンは治療方法ではないので「このお部屋に入ったから、何かができるようになる」というものではありません。

日頃何らかの形で制約されたりストレスに感じる状況を、自分の好きな感覚刺激で満たされる心地よい体験によって、リラックスしたりリフレッシュできたり、時にはクールダウンや覚醒する効用があるといわれています。癒し空間…温泉やお風呂のようなものかもしれません。

心身ともにリラックス・リフレッシュすることで、日常ではみられない、利用者さんの新たな一面を発見することができるかもしれません。またスヌーズレンで知った利用者さんの好きな感覚刺激を、日常や生活にも取り入れていくことができ、利用者さんにとって安らげる、心地よい環境を考えるきっかけにもなるのではと考えています。

今後は地域の皆さんにも利用していただけるようにと考えていますので、興味のある方はご連絡ください。(空の鳥幼稚園：西岡)

伏見障がい児・者ネットワーク発足!

「ネットワーク」という怪物

日本のヒバゴンやツチノコ、ネス湖のネッシー、ヒマラヤの雪男……。特に、ヒバゴンは1970年の目撃情報から大きな話題となり、当時の町役場に「類人猿係」もあったとか。ちなみに、その主な業務内容は、目撃情報等を受けると、即座に現地に駆けつけ、情報収集・記録をおこなう。新聞・テレビ・マスコミ等への対応。さらに、この騒動で「仕事にならない」と迷惑がる地元目撃者への「迷惑料」支給。この「迷惑料」は、役場内で正式に予算化されていたそうです。

さて、今回この私たちの住むこの伏見でも1月28日に「ネットワーク」の目撃情報がありました。今までにも伏見区内で目撃情報はあったのですが、今回はかなりの大物です。

このネットワークの正式名称は「ふしみ障がい児・者地域生活支援ネットワーク」です。伏見区内にある障がい児・者関係機関から60機関、参加者74名の今までにない規模です。

これまでも、様々な名称で〇〇ネットワークというものがありました。確かに、障がい児・者を取り巻くいろいろな状況を多くの人達に「知ってもらおう」ということも大切なことです。しかしながら、「知ってもらおう」だけでは不十分です。

ネットワークの大切さは改めて言うまでもありませんが、困難な課題を一つの機関だけで抱え込むのではなく、様々な機関が「共有し支え合う」ことです。また、その時に解決できなかった事も、きちんと課題として積み上げていき、「この地域に必要なものは△△だ」というように施策提言していかなくてはなりません。

ここで注意すべきは、ネットワークにさえ任せれば、自分たちの抱えている問題や課題が解決するわけではありません。それぞれの機関がネットワークの一員として、今まで以上に主体的にいろんな機関を巻き込んで、取り組んでいく結果がネットワークだと思えます。

そうでないと、「ネットワーク」もヒバゴンやツチノコと同じく、実体のないものに終わってしまいます。先の「類人猿係」も発足した5年後の1975年にヒバゴン騒動終息宣言と同時に廃止されたのですから…。(太田)

2007年12月～2008年3月の活動

12/15-16 医療的ケア実践セミナー in 愛知



← 12/22  
デイケア・シサム  
忘年会

昨年の神戸でのセミナーに引き続き、第2回目となる実践セミナーが、愛知県にて全国から300人以上もの参加者が集まり行われました。相変わらずの医療的ケアに関する関心の高さが表された結果でありました。次年度は京都で500人規模の集会を行う予定となっております。医療的ケアをめぐる課題の一つひとつが一歩ずつ解決されていくことを願ってやみません。

12/23 『遊隣』クリスマス会↓



12/27 デイサービス忘年会↓



1/23 スノーズレン学習会

1/28 ふしみ障がい者地域生活支援ネットワーク会議

1/30 愛隣館全館会議

2/18 伏見障がい児・者の地域生活を考える集会

2/23 映画「こんちくしょう」上映会

2/27 ストレスマネジメント学習会 まずは自分のストレスに気づこう!

3/4-13 アジア国際夏期学校 タイセミナー

バーンサバイ：タイのチェンマイに開設されたHIV感染者とAIDS患者のためのシェルター、CAM：タイキリスト教団(CCT)エイズサポートグループ(AIDS Ministry) SEPOM：タイー日本移住女性ネットワーク(Self Empowerment Program of Migrant Women)、バンコク最大のスラム、クロントイ等々を訪問。毎年、新たな参加者が出会いによって、活動されている方々の思いに刺激を受け、戻ってこられます。

3/20-21 社会福祉法人イエス団 新任職員研修会

3/29-30 年度末研修

柏木正行さんの  
魂に触れる ⑤

散歩

道端の小さな赤い花が  
涼しい風と戯れ  
用水路の水が  
潔らかな音を立てて流れる  
ああ此処にも自然が  
ひっそりと生きづいていたのだ  
そう思った時  
自分も亦  
生きている事に気付いたのだった

一詩集 路より  
柏木正行 著 明石書店

